

令和7年度学校評価書

岡山県立勝山高等学校
校長 瀬島 美穂



1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

- ・令和7年度の学校評価アンケートの結果、授業改善への取り組みや進路支援、ICTを活用した情報発信については、生徒・保護者・教職員から概ね3.0点以上の高い評価を得た。特に教員の89.3%が「実態を踏まえた授業改善ができている」と回答しており、年3回の組織的な校内研修が指導力の向上に寄与したと分析される。進学面でも国公立大学合格者が25名(R8.2.20時点)に達するなど、例年を上回る具体的な成果に繋がっている。
- ・一方で、教職員評価における「家庭学習習慣の定着(2.9点)」や「基本的生活習慣・ルールの遵守(2.7点)」は目標値を下回り、依然として大きな課題である。生徒の自己評価においても、特に1年次の「自身の学習努力」や「進路研究」が目標の90%に届かない68%に留まるなど、主体的な学習姿勢の育成が急務となっている。
- ・これらの分析を踏まえた改善方策として、第一に「生徒一人一人の志望進路の実現に向けた教育活動の充実」を図りたい。そのために、生徒の資質・能力の向上を目的とした授業改善や学習評価等の継続した研究を進める。また、教科等における探究的な学びを推進し、学習への内発的な動機付けに繋がる問いを行い、「家庭学習と授業の連携」を強化する。第二に、「地域の進学拠点校としての魅力ある学校作りの推進」に努めたい。協働と貢献を軸にしたPBLを推進する中で、誰かのため、集団のために働く経験を通じ、社会をより良くしようとする知と人間性を育むとともに、生徒自身の言葉や成長を発信し、本校教育の成果を可視化し、生徒の姿がみえる情報発信を行ないたい。

2 学校関係者評価委員名

山下 豊 (本校同窓会長) 宮本 浩治 (岡山大学教授) ,
森川 修 (鳥取大学入学センター教授) 池田 敏子 (本校前PTA副会長)
藤田 雅子 (真庭市教育委員会生涯教育課)

3 学校関係者評価

- ・例年を上回る国公立大学への合格実績や教職員の積極的な研修参加、SNSを活用した広報活動が成果として高く評価された。
- ・学習指導については、学校評価アンケートの結果を分析し、生徒・保護者・教職員に共通する課題である「家庭学習と授業の連携」の強化が最優先事項として指摘された。教員自身が学ぶ姿勢を示すことで生徒の意欲を喚起し、学習サイクルの確立を図ることが提言された。また、推薦入試等による早期合格者が入学後に意欲を低下させないよう、合格後の学習継続や「大学で何をなすか」という視点での指導の徹底が求められた。
- ・広報・地域連携の面では、SNS発信の効果測定や、生徒自身を広報主体として巻き込む工夫、寮の整備に合わせた広域的な広報戦略の検討が提案された。さらに、卒業後も見据えたキャリア教育の充実や、地域住民と教職員が直接対話する研修機会の創出により、地域全体で学校を支える体制をより強固にすべきとの意見があった。評価については、単なる成果の確認に終わらせず、次年度の具体的な課題を明記して組織的に取り組む姿勢を求められた。

4 来年度の重点取組

- (1) 生徒一人一人の志望進路の実現に向けた教育活動の充実を目指して、生徒の資質・能力の向上を目的とした授業改善や学習評価等の継続した研究や教科等における探究的な学びの推進に取り組む。
- (2) 地域の進学拠点校としての魅力ある学校作りの推進を図るため、多様な活動を通じた生徒のソーシャルスキルの向上、協働と貢献を軸にしたPBLの推進、生徒の姿がみえる情報発信に取り組む。